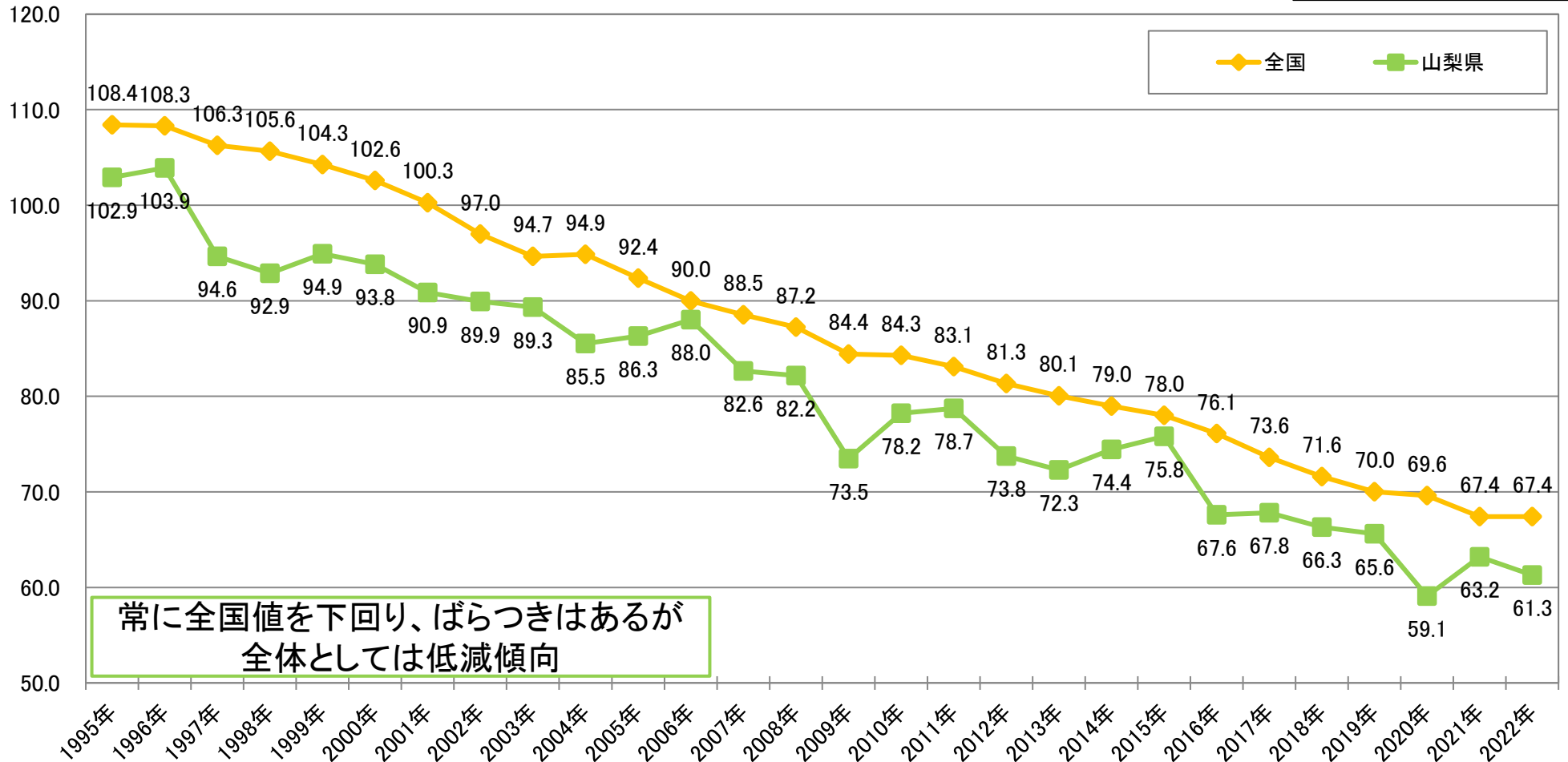


# 山梨県におけるがんの現状

山梨県 健康増進課がん対策推進担当

# 75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較(人口10万対)

参考資料2 スライド3

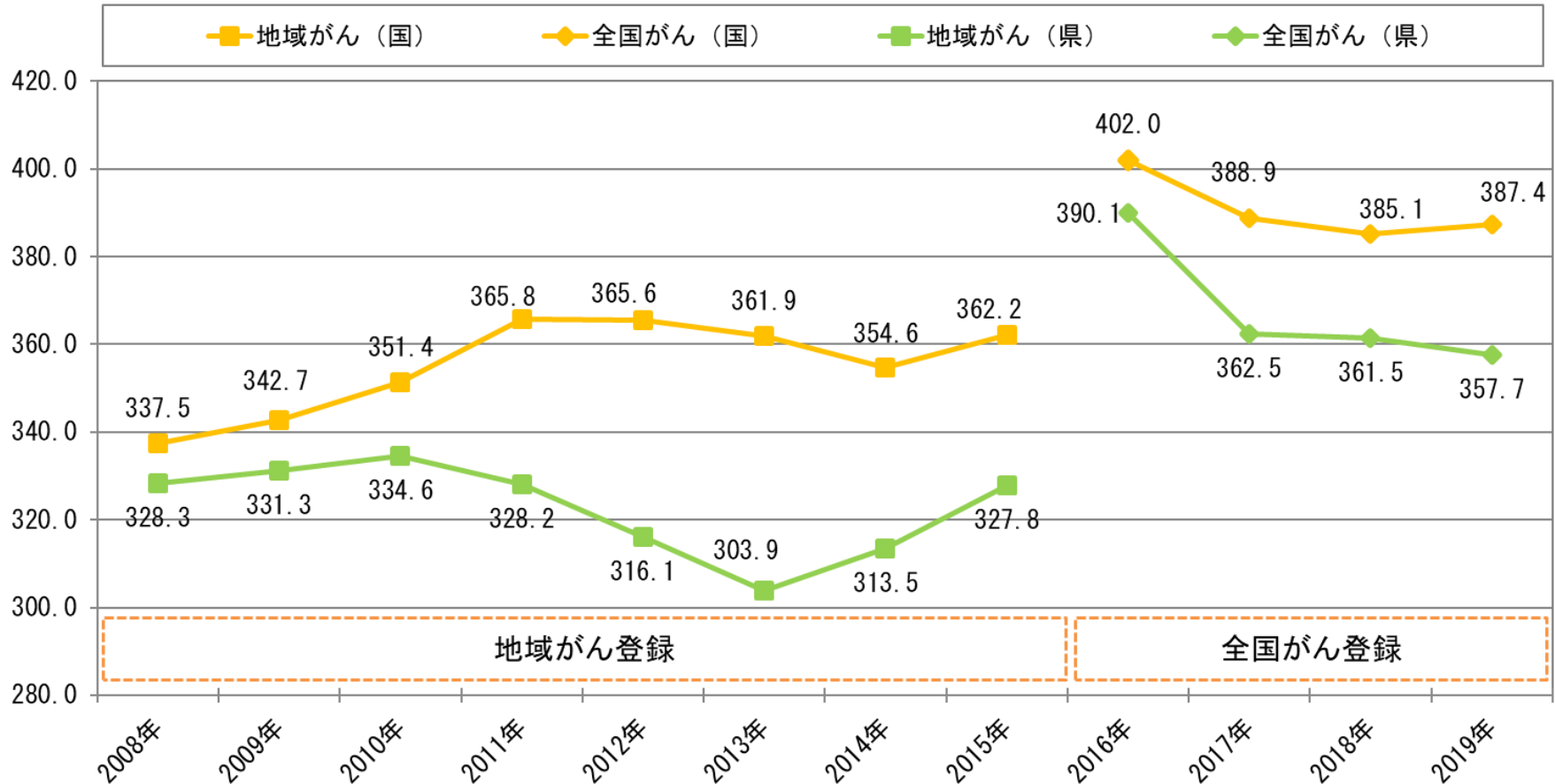


出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

高齢化の影響を取り除いたがんによる死亡割合を示す指標である「75歳未満年齢調整死亡率」は、がん対策全体の指標となっており、全国は毎年着実に低下している。山梨県は、これを常に下回っており、がんにより亡くなる可能性が低い県と言える。人口規模が小さいことから、値にばらつきがあるものの全体としては低減傾向である。

# 全部位年齢調整罹患率の全国との比較(上皮内がんを除く) (人口10万対)

参考資料2 スライド9



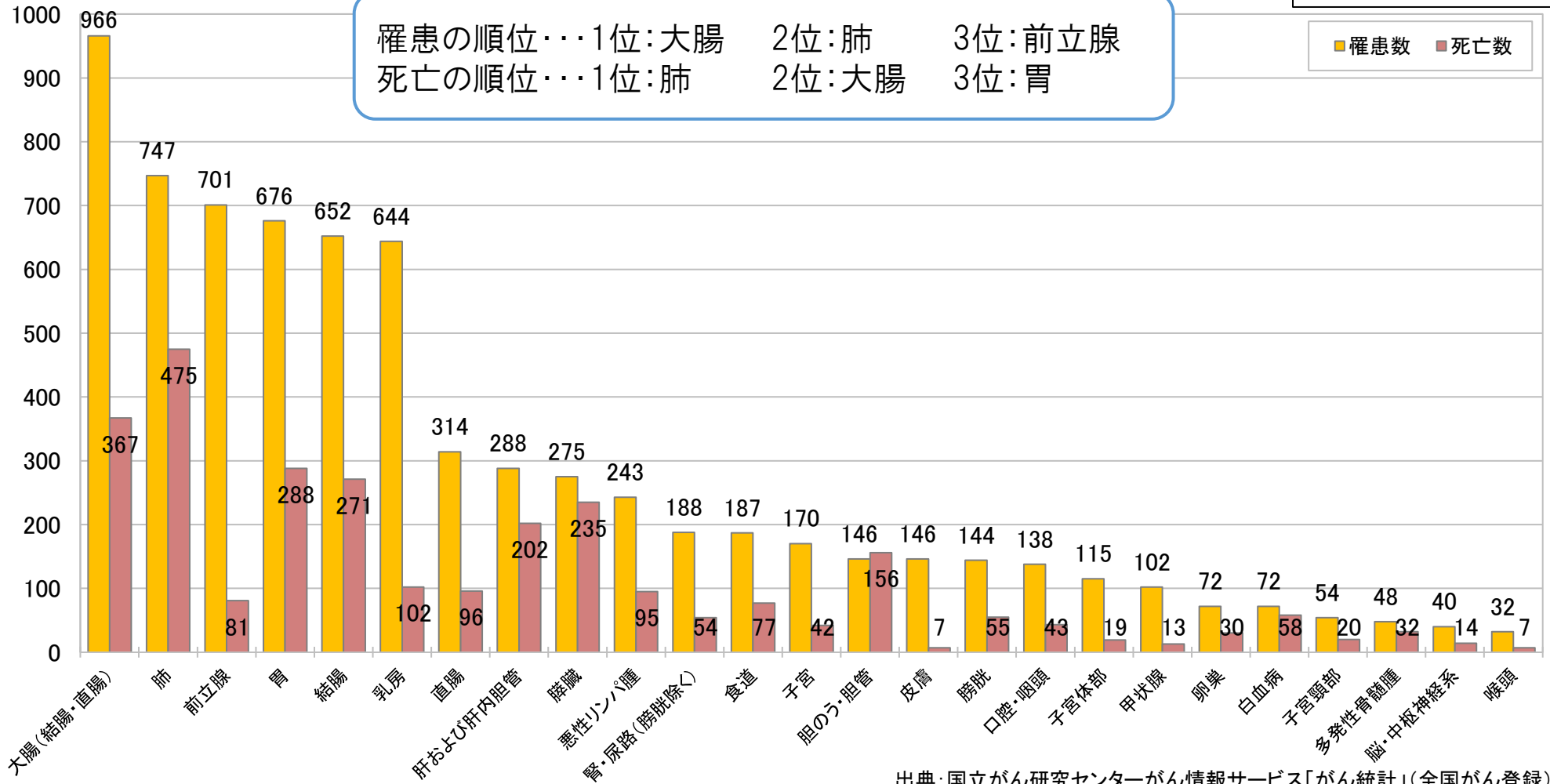
出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))  
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

高齢化の影響を取り除いたがんにかかる人の割合(年齢調整罹患率)は、がんの予防についての総合的な指標となる。山梨県においては、統計を取り始めた2008年以降、各年において全国を下回っている。

# 山梨県の罹患数と死亡数の比較(2019年)

参考資料2 スライド13

罹患の順位・・・1位:大腸 2位:肺 3位:前立腺  
 死亡の順位・・・1位:肺 2位:大腸 3位:胃

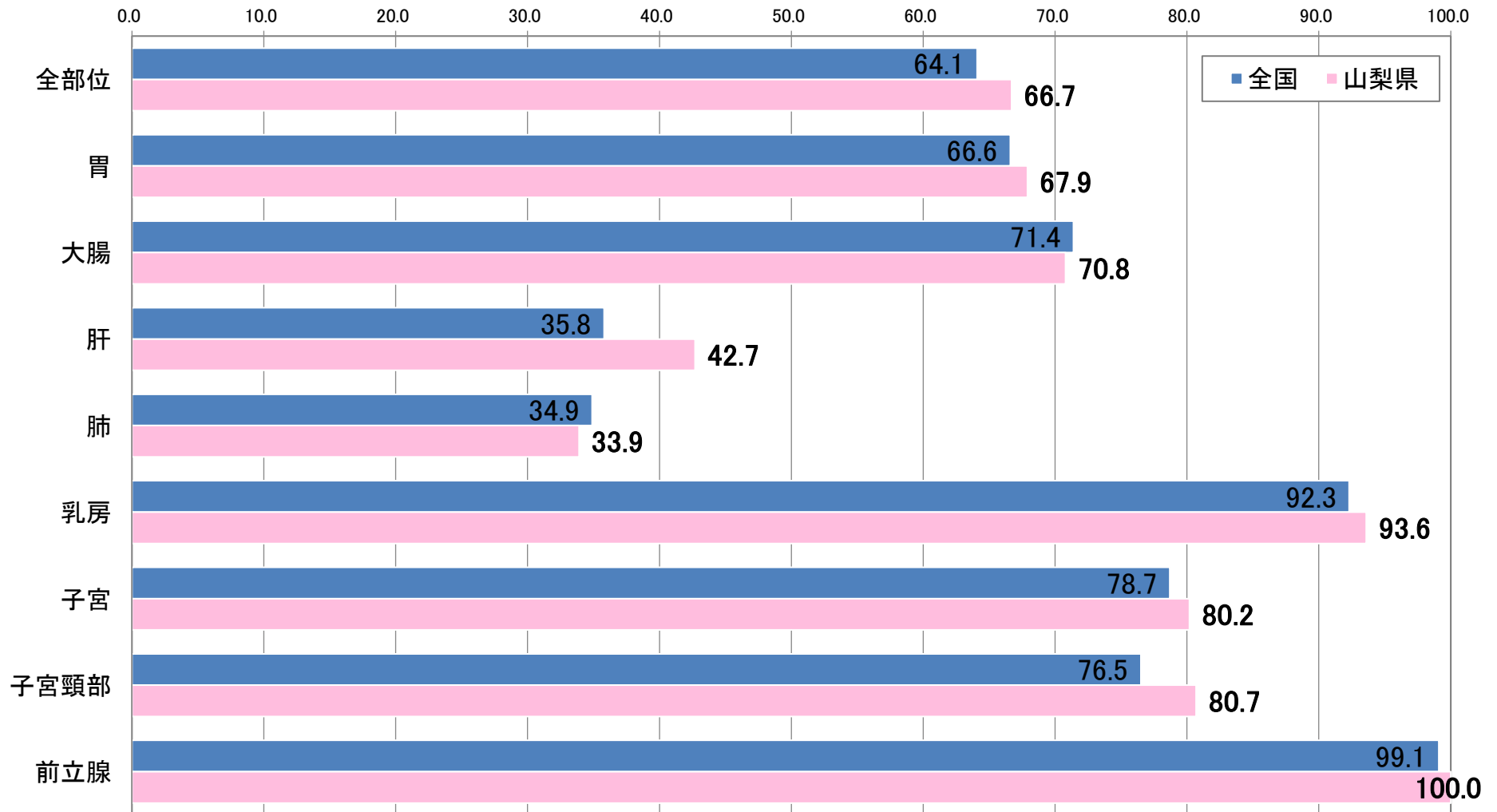


出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)人口動態統計

がんにかかった人の数(罹患数)は、大腸がんが最も多く、肺がん、前立腺がんが続いている。がんにより亡くなった人の数(死亡数)については、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順になっている。乳がんや前立腺がんのように罹患数に比べて死亡数が少なく、死亡原因になりにくいがんがある一方で、肝がんやすい臓がん、胆のうがんなど、罹患数と死亡数の差が小さいがんもあるということもわかる。

# 部位別5年相対生存率の全国との比較(%)

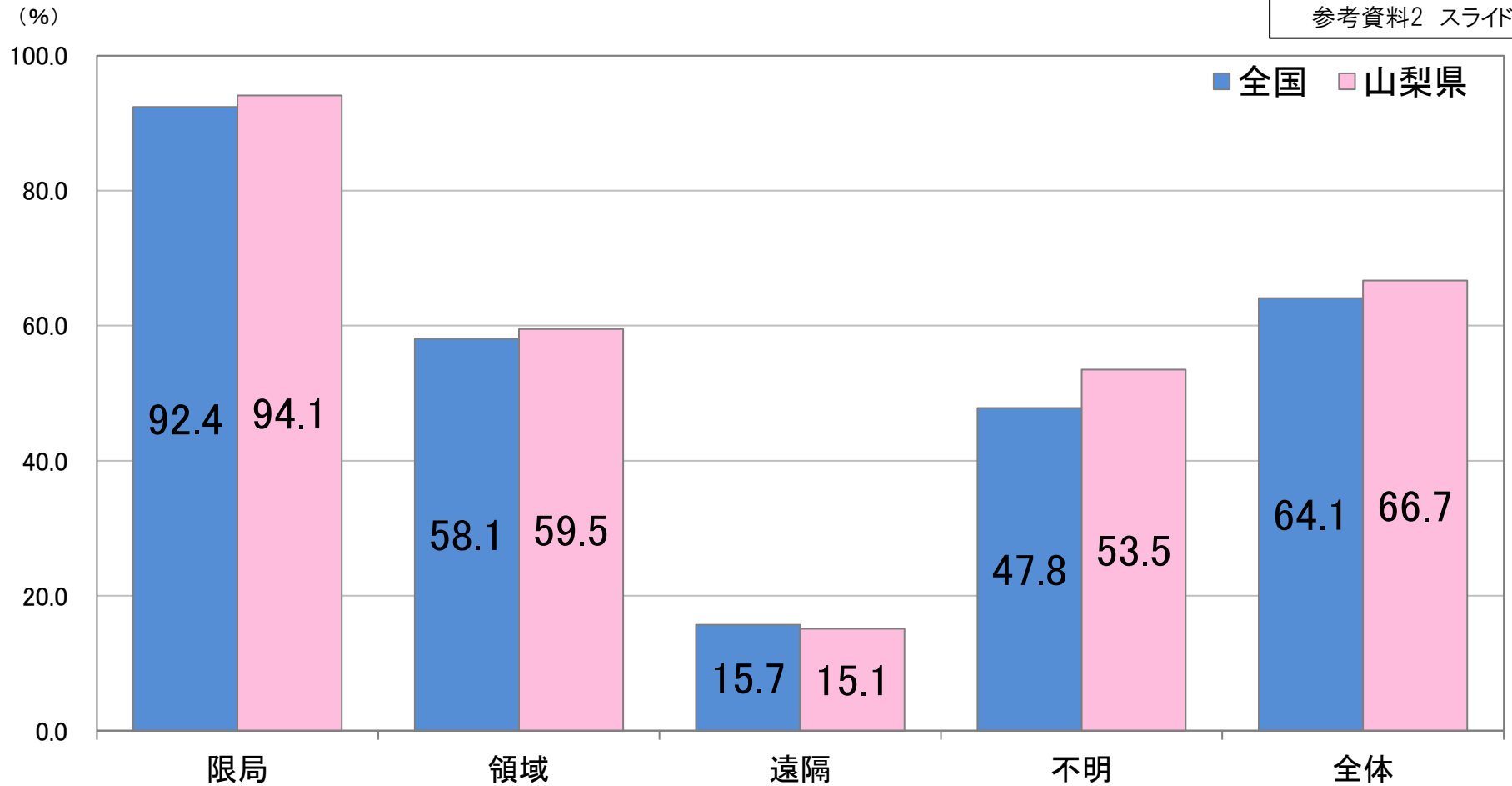
参考資料2 スライド21



出典: 全国がん罹患モニタリング集計2009~2011年生存率報告

# 全部位進行度別5年相対生存率の全国との比較

参考資料2 スライド20



領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

発見時の進行度別に5年相対生存率を見ると、限局で90%以上であるのに対し、領域で60%、遠隔で15%程度に低下しており、早期発見・早期治療の重要性がこのデータにも現れている。

出典：全国がん罹患モニタリング集計2009～2011年生存率報告